

事務所 〒690-0874 松江市中原町167-1-3F TEL 21-6143 FAX 31-8985
HP: <http://www.matsue-rotary.jp> E-mail: office@matsue-rotary.jp

第3174回例会 (平成29年9月6日・水)

今週のプログラム

9月6日(水) ゲストスピーチ

「出雲国風土記を巡り歩いて」

山陰ケーブルビジョン(株) アナウンサー おおにしともこ 大西友子氏

今週のプログラム

9月13日(水) ゲストスピーチ

「ガバナーのお話」

第2690地区ガバナー いけがみ ただし 池上 正氏

誕生月

大山 慎介会員 11日 小村 光寛会員 20日
堀江 貴会員 26日 榊井 隆行会員 27日
大野 光徳会員 28日 紀野 典彦会員 29日

出席100%賞

杉原 秀範会員 23年



本日のエレクトーン 糸川恵美子 さん

例会変更のお知らせ

月 日	クラブ名	受付場所
9月11日(月)	出雲中央	出雲ロイヤルホテル内事務局
9月19日(火)	松江しんじ湖	すいてんかく
9月21日(木)	松江東	ホテル一畑
9月22日(金)	出雲南	出雲ロイヤルホテル内事務局
9月25日(月)	米子南	米子全日空ホテル
9月27日(水)	米子東	米子全日空ホテル
10月2日(月)	米子南	米子全日空ホテル
10月10日(火)	松江しんじ湖	すいてんかく
10月17日(火)	境 港	Asian Resort Dining 朝國
10月31日(火)	松江しんじ湖	すいてんかく

2017年(平成29年)9月～10月の予定

9月6日(水) 定例理事会
9月13日(水) 池上正ガバナー公式訪問例会(A方式)
12:30～13:30
10月4日(水) 定例理事会
10月21日(土)～22日(日) 地区大会
22日(日) 本会議 10:00～ 倉敷市民会館
記念講演
徳川宗家19代目当主
翻訳家、政治・経済評論家
徳川家広氏
「関ヶ原から読み解く日本近代史
～中国地方の徳川400年～」
懇親会 17:00～ 倉敷アイビスクエア
交通手段 松江4クラブ合同貸切バス

第3173回例会記録

平成29年8月29日(火・曇り時々雨)

会員数 69名
出席者数 43名
欠席者数 26名
出席率 68.33% (出席免除会員含む)
前々回補正 90.63% (出席免除会員含む)

ビジター なし

メーキャップ 長岡、藤井、古瀬、榊井(松江南)、藤本(松江東)
波多野、舟越(松江しんじ湖)、紀野(水郷祭翌朝清掃)

【松江4クラブ合同例会】ホスト：松江しんじ湖RC

例会 18:30

司会：SAA 恒松 徹

- ・開会点鐘 松江東RC会長 久保田一朗
- ・国歌斉唱 ソングリーダー 大内 茂
- ・ロータリーソング「奉仕の理想」
- ・「四つのテスト」唱和 職業奉仕理事 永瀬 正和
- ・ホストクラブ会長挨拶 松江しんじ湖RC会長 久保田一朗
- ・ガバナー補佐挨拶 第3グループガバナー補佐 中村 寿夫



・各クラブ会長／幹事／新入会員紹介(2017年1月26日以降入会)／米山記念奨学生



クラブ別に登壇 各クラブ幹事よりまとめて紹介



・幹事報告 松江しんじ湖RC幹事 中村 寿男
 ・委員会報告(出席報告) 松江しんじ湖RC出席委員長 石倉 貞昭
 ・閉会点鐘 19:20 松江しんじ湖RC会長 久保田一朗

懇親会 19:30

司会:松江しんじ湖RC親睦副委員長 原川 和良
 ・開会挨拶 親睦委員長 吉村日出国
 ・乾杯 第3グループガバナー補佐 中村 寿夫
 ・アトラクション
 「lilica エレクトーン ミニライブ」 多田納夕佳子 (lilica)
 ・閉会挨拶 松江しんじ湖RC副会長 又賀 敬子
 ・ロータリーソング「手に手つないで」
 ソングリーダー 大内 茂
 ・閉会 20:50

ひとこと
 随想

「山陰の表玄関」



きののりひこ
 紀野典彦

7月26日に松江ロータリークラブに入会させていただきました紀野でございます。これから宜しくお願い申し上げます。初回ご挨拶で申し上げましたが、私は日本航空からの出向で6月に出雲空港ターミナルビルに着任しました。前任地は北海道・帯広で、山陰・島根へ来たのは今回が初めてで土地勘も無いため、着任当初は不安もありましたが、毎日広々とした宍道湖を横に見ながら出勤しているうちに、何故か気持ちも落ち着いて参りました。食事でしみ汁をいただく機会も多いので、しみみパワーに支えられているのかもしれない。

さて、今回は皆様もご利用機会が多い出雲空港についてご紹介したいと思います。ご存知かも



しれませんが、出雲空港は昨年開港50周年を迎えました。開港時滑走路は1200mでプロペラ機YS-11が大阪線に就航していましたが、現在滑走路は2000mとなり、東京、大阪、福岡、名古屋などへ直行便が就航しています。ビジネス客に加え出雲大社の式年遷宮や松江城の国宝化などで観光客も増えて年間乗降客数は100万人に迫る一方、乗降客増加に伴い、空港内無料駐車場が満車になるなど頭の痛い事態も生じております。昨年の国内空港乗降客ランキングでは出雲空港は71空港中32位の89万で、中四国地区では松山が14位289万人、広島が15位285万人、高松が18位184万人、岡山が23位143万人、高知が24位140万人でした。出雲より上位の空港は国際線が就航していたり、空港の夜間運用時間(飛行機が離発着可能な時間)が21:30又は22:00迄で出雲の20:30迄より長く、利便性の良いダイヤが組めたりすることで優位にあるようです。ちなみに近隣の米子空港は39位61万人でしたが、夜間運用時間は22:00迄で羽田線最終便は上下とも出雲空港より遅いダイヤになっております。また、最近では航空会社が設置するラウンジの他に、クレジットカード会社が上位メンバー向けラウンジを設置する空港も増えておりますが、残念ながら出雲空港にはどちらもありません。但し、有料待合室が大小2部屋ありますので、予約が空いていれば、当日払いで使用することが可能です。

出雲空港は山陰の表玄関として、中四国の他空港を参考にサービスレベルの向上に努めて参りますので、ご支援の程よろしくお願いたします。

(空港管理)



仙田 一 恭
せん だ かず やす

「心に残る松江ロータリー」についてレポートしてほしいと広報委員長さんの小林先生から週報の依頼があり、私には全く文才がありませんが、しかし依頼された以上何か思い出したいと、早速過去をひも説いてみました。なんとと言っても一番記憶に残ることは1987年～88年度のRI、269地区大会の思い出である。

当時は松江ロータリーは年齢層も高く、後に亡くなられた、故松崎定夫さんのガバナーの時の松江ロータリー主管による2690地区大会である。当時はまだ269地区の頃で松江ロータリーの会長は、故皆美健夫さんで、幹事さんは泉完次さんであった。大会実行委員長は、あの厳格な、故田江武彦様で、代表幹事様は筋の通った間違っただけの嫌いなロータリーのベテラン米田盛造さんである。

私は大会全体を企画してほしいと松崎ガバナーさんより依頼されており、地区大会計画実行委員長を申しつかり、引き受けることにした。私はまだロータリーに入会して10年ぐらいの頃で若輩者でしたがJCに10年の在籍経験がありましたので、その経験を生かして企画いたしました。大きな大会を企画するのは、出来るだけ少人数で良いと考えて個性の強い人二人だけを選びました。三人寄れば文殊の知恵という言葉がある。大会式典には山本隆志さん、そして懇親会運営実行委員には山久瀬正樹さんを選び、会員全体を動かす主軸となり組織を立案し、スタートしました。親友の泉完次さんは地元の松江ロータリーを取り締まる幹事さんでしたので大会式典まで携わって頂くのは申し訳ないと思い、大会企画から外れて頂きました。

その時一番印象に残ったのが日本のRI会長代理に選ばれていた、北九州、福岡市の日本代表理事の末長直行氏であった。担当地区としては大会当日にご挨拶を賜るため、代表理事には表敬訪問して大会のご出席をお願いに上がらねばならないとの事で、故田江武彦実行委員長と私と二人で福岡



空港に降りた。あらかじめコンタクトをとっていたので捜して行けばわかるところ、迎いの車が空港前に待機してお待ち頂いていたのだ。見れば旧型のロールスロイスである。それで2度びっくり、生まれてはじめて乗る車である。ロータリーはここまで気を配らねばならないのかと頭の下がる思いがしました。その気配りの使い方にはさすが大企業の会長さんが為れることは違うものだと感心した事です。

次に大会式典には記念講演がつきものです。人選には困りましたが、山本隆志実行委員より提案があり、当時テレビ出演で有名な藤本義一氏を選びました。その後の交渉でOKをとり、大会式典までには間に合うようにコンタクトをとり安心しておりましたところ、大会前日に台風と豪雨があり山陰線も空港もストップしてしまい行けなくなったとの連絡があったのだ。この場に及んでいくら天候不順とは言え約束が違うのではないかと激怒し、大阪からタクシーで松江まで来るよう申しつけた記憶がある。早速、藤本氏も快く引き受け時間までには大会式典の記念講演に間に合うことが出来たのである。そのようなエピソードがあった。この様に大会は大成功であったが裏方は大変だったのだ。それに当時は式典会場と懇親会場が1カ所になく、県民会館と市立体育館と2カ所に分かれていたのだ。その為に式典終了後の移動が大変だったのです。輸送係の故福田忠実行委員は一度に大会出席登録者数1600人を一度に30分以内に移動させねばならず、大変な思いをした経験がある。登録者数は確か2400人であったような気がする。その時応援をして頂いたのが懇親会場のバスの降車時の照明である。応援頂いたのが南ロータリークラブの故福田忠さんが懇志にして頂いている建設業の方で、現場の照明を持ち込んで照明して頂いた。その為に駐車場の混乱もなく、スムーズに会場入りをして頂いたのだ。これには頭の下がる思いがした。

会場の整備後片付けはローターアクト、インターアクトをお願いをして、立つ鳥跡を濁さずの精神で最後まで奉仕をして頂いた。此の大会には亡くなられた諸先輩には心より哀悼の意を込めご冥福をお祈りしたいと思います。

その頃の現役メンバーで此の大会を知る在籍メンバーは現在わずか7名のみとなった。名前を挙げると下記の通りです。

大会計画実行委員長 仙田一恭、青少年交換奉仕委員長 信太秀夫、地区資金委員長 細田重雄、国際奉仕地区幹事・大会SAA兼任 内藤守、青少年奉仕地区幹事 大谷公夫、勝田哲也（大会運営懇親会会場担当）、石飛博正（大会運営式典会場担当）（敬称略、年齢順）

この他、南ロータリークラブとの親睦野球、姉妹クラブの宝塚ロータリー訪問、新緑探訪と心に残るものは数え切れないほどありますが、続きます。（文房具販売）

ひとこと
随想

「自己紹介」



あおき のり ひと
青 木 範 人

山口県の瀬戸内海側で生まれ育った私にとって、7月に始まったばかりの松江での暮らしには大きな期待を寄せています。これまで11回の転職を経ていながら初めての山陰勤務となりましたが、実は26年前に金沢で3年半ほど勤務した経験があり、どちらかと言えば「初の山陰」よりも「久々の日本海側」という感が勝っています。「弁当忘れても傘忘れるな」という言葉を金沢でも幾度となく耳にしたほか、日本海特有の海の幸や彩り豊かな和菓子などに触れる度に、金沢に似た風情を感じながら当時のことを懐かしく思い出します。

高校の修学旅行で兼六園には訪れていたものの居住未経験の地という珍しさも手伝ってか、北陸3県だけでなく飛騨高山や志賀高原などの遠方まで足を延ばしたものです。そこで得た素晴らしい経験は今でも大切な財産ですし、松江も同様に私の人生において印象に残る街となればと思ってお

ります。

まずは単身赴任の身軽さを存分に活かし、地元の食材を美味しくお手頃価格で提供してくれる飲食店を「食べログ」を頼りに訪ねるつもりです。ただ、前任地の広島ではお好み焼きや汁なし担担麺など炭水化物中心の食生活を送ったせいで体脂肪率が一気に上昇してしまい、春からゴルフのラウンド数を増やしてみたものの、基礎代謝が落ちているのでなかなか痩せません。そこで、しばらくサボっていた趣味のロードバイク（自転車）を再開することで、多少なりともスリムな体型に戻るのではと淡い期待を抱いています。

最近、偶然ではありますが業務としてサイクルイベントに関連した地域復興をお手伝いする機会があり、「しまなみ海道」に代表される海外からも自転車愛好家を誘致できる地域と島根県の違いを考えさせられました。島根県にも美しい自然を満喫できる推奨コースは多々あるので、こうした資産を活かした地域活性化に向け、サイクリストの端くれとして、またIT企業という公私の立場でお役に立てるよう尽力したいと思っております。

（移動通信事業）